

金属事業

企業年金にゆうす

2025 - No. 17

もくじ

第24回代議員会理事長挨拶（要旨）……………	2
2024年度企業年金（DB）の 運用パフォーマンス……………	3
「企業年金にゆうす」等の ペーパーレス化について……………	3
2024年度決算等の概要……………	4
確定拠出年金（DC）プラン加入者の 2024年度運用利回りについて……………	6



Nepal photo by. Tetsuo Ota (Best Inc.)

去る7月23日、東京金属事業健保会館で第24回代議員会が開催されました。
当日は、2024年度の事業報告および決算、決算結果を踏まえた財政検証などを中心に審議が行われ、提出議案の全てについて全会一致をもって議決承認されました。

本号では、第24回代議員会において承認のあった2024年度決算等の概要を中心にお知らせいたします。

第24回代議員会 理事長挨拶（要旨）

皆様にはご多用のところご出席いただきましてありがとうございます。

また、平素は、当基金の事業運営に格別のご理解とご支援を賜っており、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

天気予報では連日「一段と暑く」という言葉が発せられております。本日は北海道で40度の予報も出ておりますが、まさにこれから夏本番を迎え、暑さも一段と厳しくなりますので、皆様にはくれぐれもご自愛いただきますようお願い申し上げます。

ご承知のように、この日曜日に行われた参議院選挙では、与党の議席数が過半数を割り込み、多党政治の始まりとなったところです。その意味で今回の選挙は日本の政治を分ける大きな節目の選挙となり、惨敗の結果を受けて、首相の責任論も浮上しておりますが、日米の関税交渉において自動車を含め相互関税を25%から15%に引き下げる合意がなされたことで退陣の道筋はできたのではないかと考えています。

日本の政治は暫く不安定な状況が続くものと見込まれますが、いずれにせよ、政府には交渉を着実に取りまとめてくれることを期待している次第です。

さて、本日は、2024年度決算結果とその関連議案を中心にご審議いただくこととしております。2024年度の資産運用に関しましては、すでにご案内のように、米関税政策による世界経済減速懸念から年度末にかけて株式等が急落したため、予定利率の2.0%にはわずかに届かなかったところであります。

結果として、決算上の不足金を計上することとはなりましたが、当基金の収益率は全国のDBとの比較において上位で着地しておりますので、本日はそのあたりのところもご報告させていただきます。

2025年度もすでに第2Q（クォーター）に入り、第1Qでは2%台半ばの収益率を確保できているものの、依然この先々には不透明感が漂っております。

この先のトランプ氏の言動は勿論のこと、マーケットの動きを見通すことは全くもって難しいわけではありますが、いずれにしても、当基金は今年度末に2回目の財政再計算を迎えますことから、市場の動向を注視しつつ、所要のリスク管理に努めてまいりたいと考えております。

最後になりますが、本日の会議が、建設的な議論の下、有意義なものとなりますことを祈念いたしまして、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

2024年度 企業年金(DB)の運用パフォーマンス

2024年度における当基金の資産運用結果については、すでに資産運用状況(Quarterly Report)でご案内のとおり、年度末にかけての米関税政策による世界経済減速懸念の高まりを受けた内外株式等の下落から予定利率の2.0%を下回る1.89%(運用報酬を控除した決算上の「時価ベース利回り」は1.65%)となりました。

下の表は、当基金が運用を委託している信託銀行と生命保険会社がそれぞれ受託しているDBの2024年度運用利回りの平均を速報ベースで取りまとめたものです。予定利回りの2.0%には届かなかったものの、これらとの相対比較において、当基金の2024年度運用実績1.89%がいかに上位であったかがお分かりいただけます。

参考 2024年度 企業年金(DB)のパフォーマンス

	三井住友信託	日本生命	第一生命	りそな銀行	国 (GPIF※)
DB数	446	257	36	266	—
運用利回り (平均)	△0.40%	0.80%	0.52%	△1.17%	0.71%

(注)運用機関の運用利回り(平均)は時価ベース利回り。ただし日本生命は修正総合利回り、GPIFは時間加重収益率。第一生命は基金型DBのみの集計結果。

※GPIF:Government Pension Investment Fund (年金積立金管理運用独立行政法人)の略

事業主の皆様にお知らせです

「企業年金にゆうす」等のペーパーレス化について

当基金では、環境への負荷軽減等の観点から「企業年金にゆうす」、「業務概況報告書」について、これまでの配布基準による送付を終了し、次号より原則として事業主・ご担当者用の2部に変更いたします。なお、社内事情から従来どおりの紙媒体による送付を希望される場合には当基金あてお申し出ください。

従来の配布基準

加入者数	配布部数
~1人	1
2~5人	2
6~10人	3
11~50人	5
51人~	10

次号より

今後の配布基準

加入者数	配布部数
一律	2

今後とも加入者に対する情報提供を推進していくため、事業主の皆様には、加入者への当基金のホームページの周知につきご協力いただきますようお願いいたします。

基金HPは <http://www.kinzoku-pf.or.jp>からご利用ください

詳しくは、本誌に同封の「事業主の皆様へ大切なお知らせです」をご覧ください。



2024年度決算等の概要

去る7月23日に開催された第24回代議員会において、2024年度事業報告および決算が全会一致で承認されました。また、決算では、年金資産の積立状況を確認するための財政検証を実施しました。以下では、2024年度決算等の概要をお知らせいたします。

なお、2024年度事業報告および決算の詳細については、別添の「2024年度業務概況報告書」(REVIEW OF OPERATIONS IN FISCAL 2024)をご参照ください。

年金経理

年金経理は、掛金収入や資産の運用による運用収益、年金・一時金の給付費などを管理する会計です。

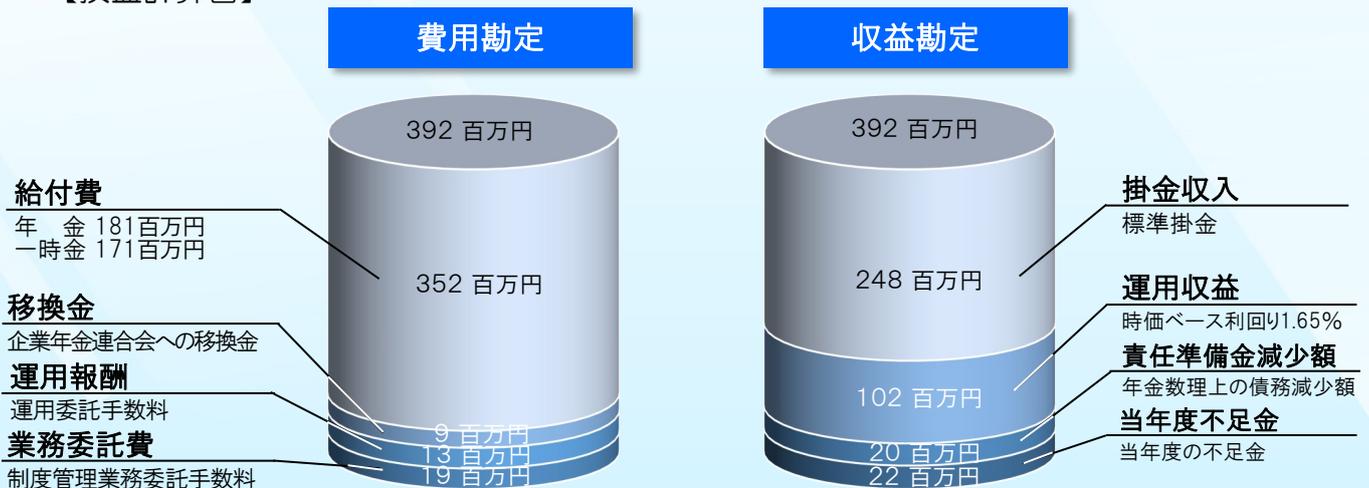
費用勘定は、年金・一時金の給付費352百万円、短期脱退者にかかる企業年金連合会への移換金9百万円、運用報酬13百万円、業務委託費19百万円を合わせて費用合計は392百万円となりました。

一方、収益勘定は、掛金収入248百万円、1.89%^(注)の運用利回りに相当する運用収益102百万円のほか、責任準備金減少額20百万円を合わせ収益合計は392百万円となりました。ただし、責任準備金減少額は実際にキャッシュフローを伴わない数理上の収益科目です。

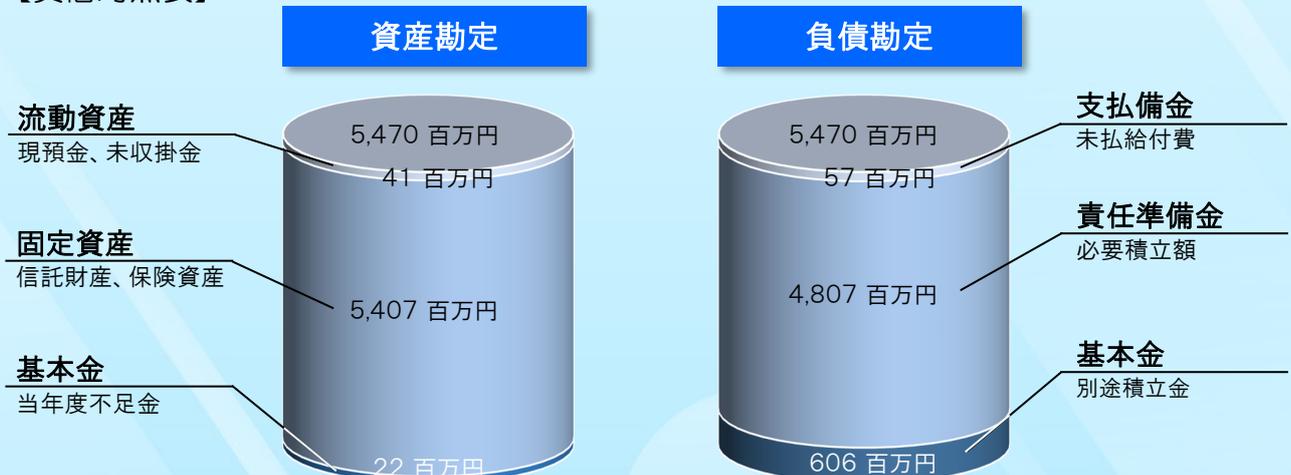
これらの結果、2024年度は22百万円の当年度不足金を計上し、当該不足金については、別途積立金の一部を取崩しの上これに充てることとしたため、別途積立金は584百万円に減少することとなりました。なお、2025年3月末の年金資産(純資産額)は、5,391百万円となっております。

(注)運用利回りは修正総合利回り。運用報酬控除後の決算上の時価ベース利回りは1.65%です。

【損益計算書】



【貸借対照表】

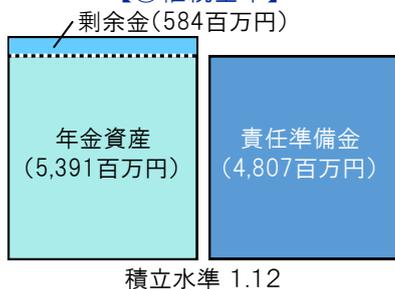


(注)四捨五入の関係から、内訳の合計は必ずしも決算合計と一致しません。

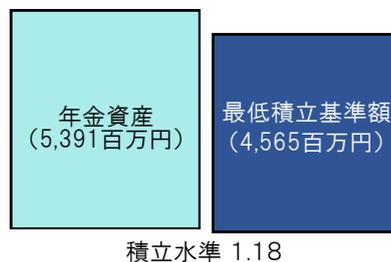
財政検証

基金の毎年の決算では、財政検証によって年金資産（純資産額）の積立状況を確認します。積立状況のチェックは、①制度が今後とも継続する前提で、現時点の積立状況に問題ないかどうかを検証する「継続基準」と、②制度が終了する前提で、現時点でこれまでの加入期間に見合った給付を賄う資産が確保されているかどうかを検証する「非継続基準」の2つの基準により行い、いずれも積立水準1.0以上がクリアの要件となります。検証の結果は以下のとおり、継続基準、非継続基準ともに基準をクリアしています。

【①継続基準】



【②非継続基準】



業務経理

業務経理は、基金の事業運営に要する事務費、代議員会に係る経費などを管理する会計です。

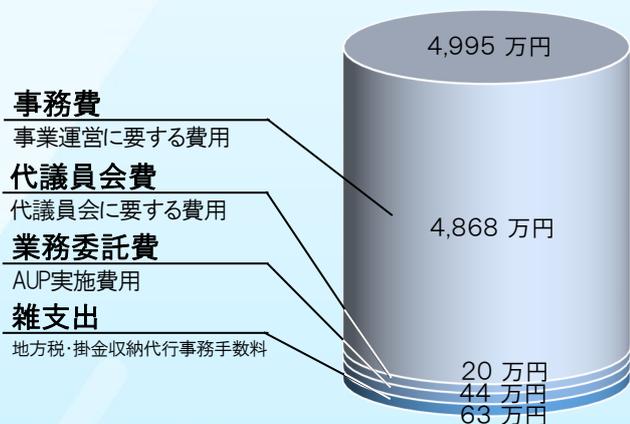
費用勘定は、人件費を含む事務費4,868万円、代議員会費20万円、公認会計士によるAUP実施費用44万円、掛金収納代行手数料などの雑支出63万円を合わせて費用合計は4,995万円となりました。

一方、収益勘定は、事務費掛金収入が4,685万円となりました。

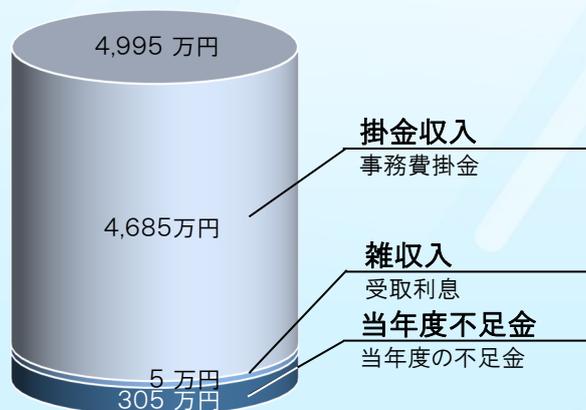
この結果、2024年度においては、305万円の当年度不足金を計上することとなり、当該不足金については繰越剰余金7,055万円の一部をこれに充てることとしました。

【損益計算書】

費用勘定

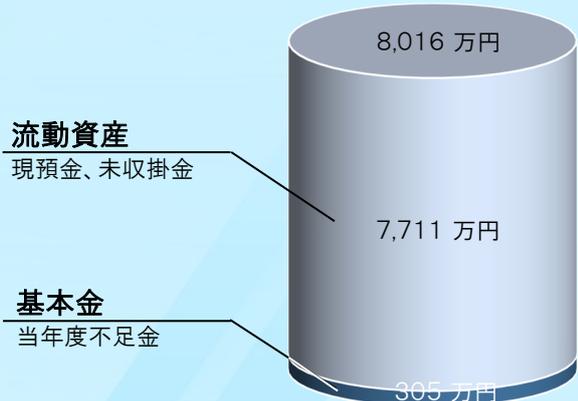


収益勘定

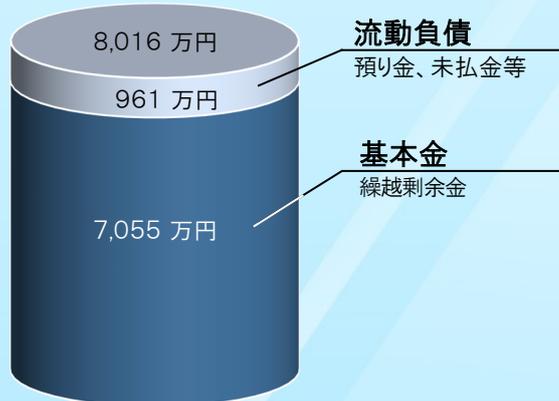


【貸借対照表】

資産勘定



負債勘定

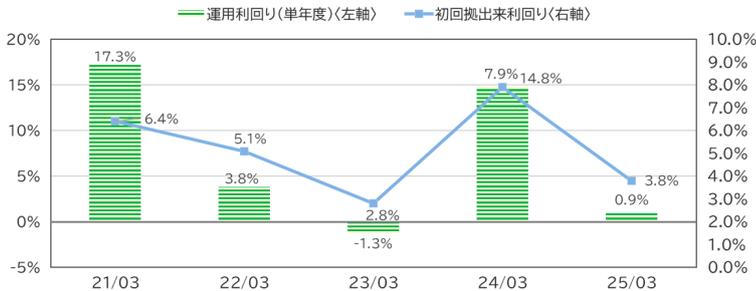


〈注〉四捨五入の関係から、内訳の合計は必ずしも決算合計と一致しません。

確定拠出年金(DC)プラン加入者の2024年度運用利回りについて

別添の業務概況報告書(REVIEW OF OPERATIONS IN FISCAL 2024)でご案内のとおり、当基金の確定拠出年金(DC)プラン加入者の2024年度運用利回りは、単年度では0.9%と前年実績を下回りましたが、初回拠出来利回りは3.8%と引き続きプラスを維持しています。

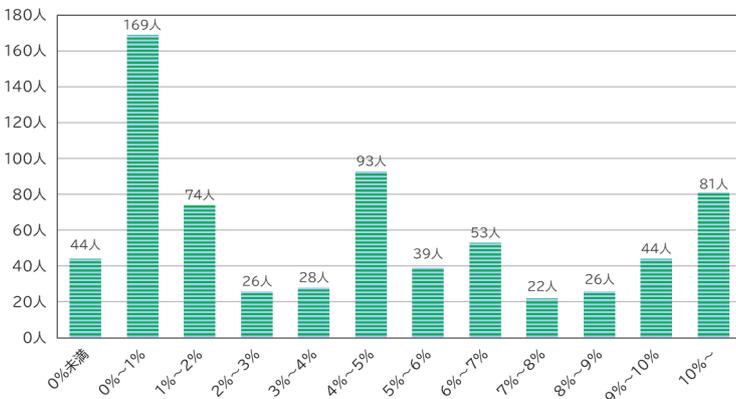
☑ 運用利回りの推移 (単年度・初回拠出来)



米関税政策による株式等の下落から単年度の運用利回りは0.9%と前年実績14.8%を大きく下回りましたが、初回拠出来利回りは3.8%と引き続きプラスを維持しています。

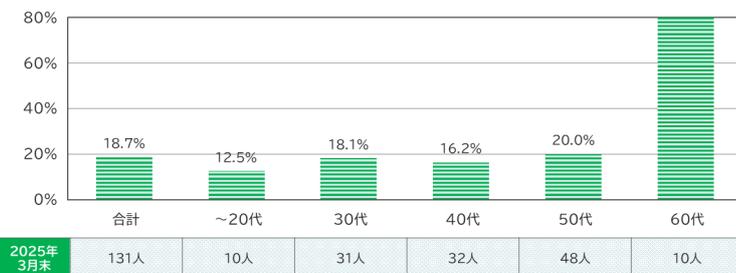
※初回拠出来利回りは、DC制度発足(加入)時から基準日までの累積リターンを年率換算したものです。

☑ 初回拠出来利回りの人数分布 (2025年3月末)



2025年3月末時点における初回拠出来利回りを人数分布で見ると、全体の94%がプラス実績を獲得しています。このうち5%以上の利回りを獲得している加入者は265人、うち81人が10%以上の高い利回りを獲得しています。一方、0%~1%の加入者も169人(全体の24%)と相応の人数に上っています。

☑ 元本確保型のみ保有者割合



運用利回りが0%近辺に偏っているのは、投資対象を定期預金などの元本確保型のみとしていることによるものと考えられます。現に上記169人中131人(約8割)が元本確保型のみ保有者となっています。

Point

元本確保型での運用は未だ低金利環境が継続しており、リターンを期待しにくい状況です。このため、目標積立額と乖離した運用結果になる可能性がありますので、ご自身の年齢を基にきちんとした運用目標を定め、それに見合うリターンの期待できる運用商品を選択していくことが大切です。

企業年金基金概況

2025年7月末現在

実施事業所数	加入者数	受給者数	年金資産額
108社	4,273名	531名	5,581百万円

発行 金属事業企業年金基金

〒101-8571 東京都千代田区岩本町1-11-11 東京金属事業健保会館1階 ☎03-5829-4950

URL <http://www.kinzoku-pf.or.jp/>